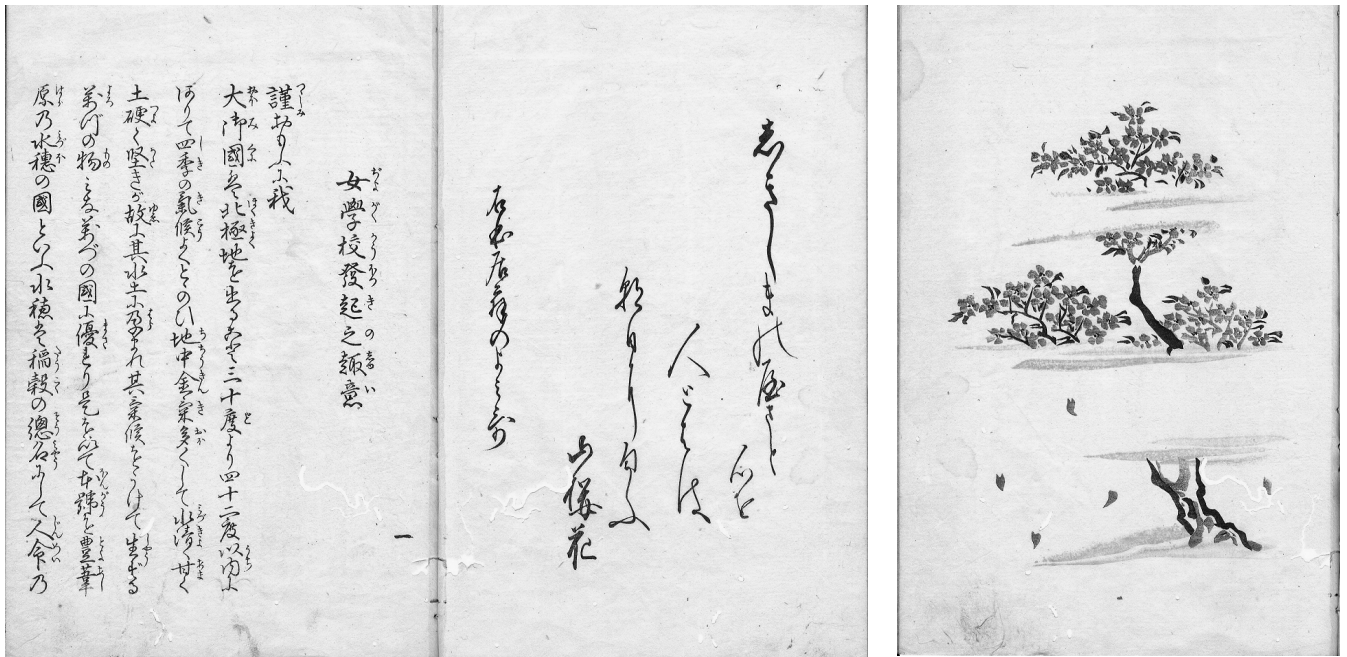


## 【読楽】013 「女学校発起之趣意書」を読む \* 読楽箇所＝本文の一部

### ●奥村喜三郎『女学校発起之趣意書』(天保8年・1837)——下からの教育改革。庶民女性のための女学校構想



\* 巻頭に本居宣長の歌「敷島の大和心を人間はば 朝日に匂ふ山桜花」

#### 【底本書誌・概要】 \* 拙稿(『江戸時代庶民文庫』5巻改題)より

[書名] 書名は別本の外題(原題簽)による。首題「女学校発起之趣意」。

[書型] 半紙本1冊。天地227耗。

[作者] 奥村城山(喜三郎・増馳)作。

[年代] 天保8年(1837)10月作・刊。[江戸] 著者蔵板。

[内容] 幕末の下級幕臣で増上寺領御霊料(江戸西南部)の地方役人であった著者が、当時の世相・風俗を憂慮し、女子教育の振興のために民間による女学校の設立を呼びかけた書で、「女学校」の語を用いた最初の著作とされる。冒頭で、太平の時代に庶民男女が奢侈・遊惰や芸者・遊女の賤しい風俗に流れている現状と、その一因として、娘に芸を仕込もうとする母親や、厳格さを失い子供の機嫌を取る手習師匠を挙げ、庶民の卑しい風俗が武家にも波及していると指摘する。この現状を打開するためには、胎教からの女子教育(読み書き・礼法躰方・一定の武芸・裁縫等の手業)の立て直しが必要であり、そのための女学校の設置や女学校における女子教育の基本的な指針(①漢字が読め和様書道をよくする女師匠を選ぶ、②女子教訓を綴った手本で読み書きを教える、③物事の道理を詳しく諭し、厳しい規則で行儀を仕付ける、④午後は日替わりで、和歌・躰方・長刀・小太刀・裁縫・機織り・紡績・綿摘みなど好みの芸を教える)を示す。そして、最後に自らの抱負を含め「私も間もなく女学校を設置するつもりだが、その趣意を娘を持つ親達に伝えたく、本書を出版するものである。以上の考えに賛同する者は、遠慮無く女学校を設置し、女子教育に尽力して欲しい。江戸府内全域の風俗を変えることはできなくても、ごくわずかの地域だけでも風俗を改善できればと願う」と述べて結ぶ。女学校設立はほとんど構想に終わったが、徳育中心の良妻賢母主義教育の先駆として注目されよう。

[参考文献] 村上直「近世・増上寺領における『女学校発起之趣意書』について」(『法政史学』30号、1978)

菅野則子「『女学校発起之趣意書』」(『帝京史学』10号、1995) \* 全文翻訳

\* 天保8年(1837)、下級幕臣で増上寺領御霊料(江戸西南部 \* 現在の目黒区・世田谷区～川崎市)地方役人、西洋流測量家の奥村喜三郎(城山・増馳)が著し出版。奥村は、文化12年(1815)以降、村役人の協力を得て村政改革を推進し、女性風俗の乱れを防ぐ女学校の設置を呼びかけた。女学校はほとんど構想に終わったが、「女学校」の語を冠した最初の著作で、徳育中心の良妻賢母主義の女子普通教育の先駆として注目される。また、天保12年から始まる水野忠邦・天保の改革で女子風俗の取締り強化にも影響を与えたと考えられる。

## 【要旨】

\*挿絵=葛飾応為(栄女・阿栄)画、弘化4年刊『絵入日用女重宝記』

- 太平の世が長く続き、奢侈・遊惰の風が男女（特に女）に広がり、芸者や遊女の賤しい風俗に。
  - ・衣服の華美、髪結い女・湯屋の利用、義太夫節・新内節の女浄瑠璃の増加、歌舞伎役者の真似など。
  - ・遊芸（琴・三味線・胡弓・鼓・笛・太鼓・踊り等）知らずは恥で、機織り・糸紡ぎ・裁縫等を賤しく思う。
  - ・庶民の賤しい風俗が武家女性にも波及。
- 母親が娘に芸を仕込もうとするのが原因。
  - ・母に三味線・履き物を持たせて、娘が平気で市中を往来する。
  - ・母親も多大な金銭を費やして衣装や道具を揃え、稽古に祭りにと方々へ連れ歩く。
  - ・これらの芸能は、娘に賤しい風俗を仕付け、色情に導くもので、年をとっては役立たない。



- 手習師匠も、昔は厳しく教えたが、今や、厳格な指導は子供ばかりか親にも不人気。
  - ・師匠が子供の機嫌を取り、揃いの浴衣や手拭いを弟子に売りつけ、大勢引き連れて見栄を張る。
  - ・女は身を修める道を学ぶ機会が少なく、「女の法」を知らずに、悪風に染まる。
- 胎教からの女子教育の徹底が必要。
  - ・容貌より心懸けの良い女を妻にすべき。不埒な子は根本的に母の心懸けの結果。
  - ・宮仕えなど特殊な場合を除き、遊芸を習わせるのは全く無用。
  - ・「女の法」を仕付けるには、まずは読書が大切。「和解女孝経」「女大学」、仮名交じり文、詩歌などを手習いさせ、その意味を教諭する。
  - ・女は第一に行儀を仕付けるべきで、小笠原流や伊勢流などの躰方を習わせる。
  - ・長刀・小太刀等の武芸は、武士だけでなく、武家奉公する町人にも必須。男がない奥向きの非常時の備えにもなる。
  - ・織り縫い・紡績は女第一の業ながら、近年、これを賤しく思って習おうともしない者がいるのは浅ましいことだ。
- 江戸府内の各所に女学校を建てるべき
  - ・漢字が読め、和様書道をよくする女師匠を選び、女子の教訓となる事を手本にして読み書きを教える。
  - ・物事の道理を細やかに諭し、厳しい規則で行儀を仕付ける。
  - ・午後は日替わりで、和歌・躰方・長刀・小太刀・裁縫・機織り・紡績・綿摘みなど、好みの芸を教える。
  - ・私自身も間もなく女学校を設置するつもりだが、その趣意を、娘を持つ親達に伝えたく、本書を出版するものである。以上の考えに賛同する者は、遠慮無く女学校を設置し、女子教育に尽力して欲しい。江戸府内全域の風俗を変えることはできなくても、ごくわずかの地域だけでも風俗を改善できればと願うものである。